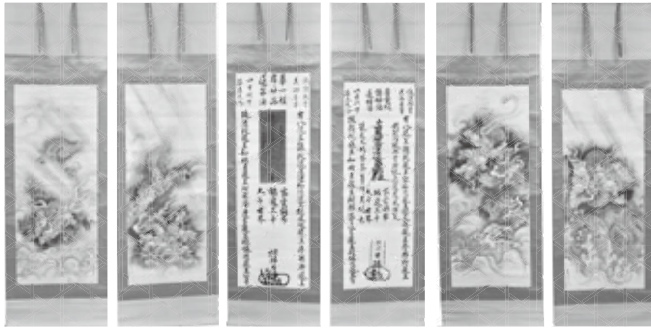


本了寺の雨乞い祈禱と寺宝

西田 孝司(松原市文化財保護審議会)



▲上り龍の「五頭龍」「七頭龍」(右)と下り龍の「三頭龍」「九頭龍」(左)の中央に二幅の本尊軸を掛けて雨乞い祈禱を行う(本了寺蔵) 上り龍の「五頭龍」は玉を持つ(右端)。

▲番神堂 日頃は観音開きの扉が閉められている。

▲本了寺(若林1丁目) 山門の左側に「くす」の巨樹がそびえ、その左に番神堂の背面が見える。

若林の日蓮宗寺院 番神堂と題目・曼荼羅本尊の八大龍王軸

前回、市が戦国武将・三好長慶の生誕五〇〇年を記念して、長慶が若林に陣所を置いた推定地の若林神社(若林一丁目)にNHK大河ドラマ誘致の「のぼり」を設置したことに触れました。「のぼり」作成には、長慶の父三好元長の墓所がある法華宗の顕本寺(堺市堺区)も関わっています。長慶は同寺で、元長の二十五回忌あたり、法華千部読誦や千部書写の法要を修し、位牌所としました。

若林神社のすぐ西南に、日蓮宗の本了寺が建っています。永喜山と号し、江戸時代初期の元和六年(一六二〇)、若林の豪族であった長尾氏の菩提寺として創建されました。境内には、長尾氏初代の長尾輝虎が元和三年(一六一七)に亡くなり、正行院了喜日慶の戒名で建立された巨大な五輪塔が祀られています(「歴史ウォーク」66・67)。

本了寺は元々、京都市山科区の本圀寺の末寺でした。のち幕末ごろから、堺市堺区の日蓮宗本山の一つ、妙国寺との関係が深め、現在は堺法縁となっています。妙国寺は、長慶の弟の三好実休が土地を寄進して、創建した寺です。鎌倉時代中期、日蓮は南無妙法蓮華経の題目を唱え、仏法の真髄は法華経にあると開宗しました。のち、教学の解釈などから諸派に分立し、日蓮宗や法華宗などに分かれていきました。本

了寺は、戦国時代の長慶の若林陣所設営後の創建で、歴史的な関わりはありません。ただ、地域の中で、若林神社や近くの真宗大谷派の立法寺(「歴史ウォーク」154・155)と共に、本了寺は人々の心のよりどころとなってきたのです。本了寺山門を入ると、左手に樹齢三〇〇年と伝える「くす」の巨樹がそびえています。その前には、番神堂が建っています。毎月一日から三十日までを守る赤山大明神・兵主大明神・三上大明神など三十番神が彩色され、一体ずつ五体六段に祀られています。日蓮が佐渡島新潟県配流に際し、祀った堂です。本了寺にも幕末ごろに建てられ、貴重なものです。

本堂内は、本尊の南無妙法蓮華経の曼荼羅が祀られ、本尊を取り囲むように日蓮聖人像・釈迦牟尼仏・多宝如来・題目宝塔なども祀られています。ちなみに、若林神社東側に、同じ日蓮宗の東池寺が建っています。現在、境内には、江戸時代中期の石造十三重塔がみられますが、無住となっています(「歴史ウォーク」67)。本了寺住職が兼務・管理していることから、東池寺から移された日蓮聖人像も本堂に祀られています。

さて、日蓮宗寺院の中には、干害のおり、雨乞いを執り行う儀礼を行ってきました。本了寺にも、江戸時代以降、雨乞いの祈禱の時に使用した四幅の龍図と二幅の本尊軸が所蔵されています。龍図は、十八世紀前半に描かれた上り龍の「五頭龍」「七頭龍」と下り龍の

「三頭龍」「九頭龍」です。仏教では、龍王は八大龍王をさします。雨神として信じられ、日照りには雨乞い祈願が行われました。八大龍王とは「法華経」に説く仏法を守る八龍王の総称です。難陀・跋難陀・娑伽羅・和修吉・徳叉迦・阿那婆達多・摩那斯・優鉢羅の王をいいます。

四龍図には「法橋探鯨筆」とあり、朱文の円印で「守美」と落款がおされています。探鯨は江戸幕府の御用絵師・狩野派の流れをくみ、京都を舞台とした鶴沢派の二代目でした。父である初代の鶴沢探山は、狩野探幽の高弟としても有名でした。絵師鶴沢探鯨は、「法橋」の僧位も持っていました。

本尊軸の一つは、当時、本了寺の本山であった京都の本圀寺二十九世の日解の時のものです。「僧正日解」の署名があります。中央に「南無妙法蓮華経」が祀られ、左右に八大龍王の名が記されています(写真・中央右)。

もう一軸は、「律師日清」によるものです。中央に、慶長八年(一六〇三)正月、日重の時につくられた曼荼羅があり、律師の日清がのち、軸物に付けました。日重は、安土桃山・江戸時代初期の京都日蓮宗で重きをなした人物です。やはり、左右に八大龍王名があります(写真・中央左)。

他にも、本了寺で実際に明治二十六年(一八九三)八月と昭和十四年(一九三九)九月、雨乞いを行った時の祈禱札も残されています。